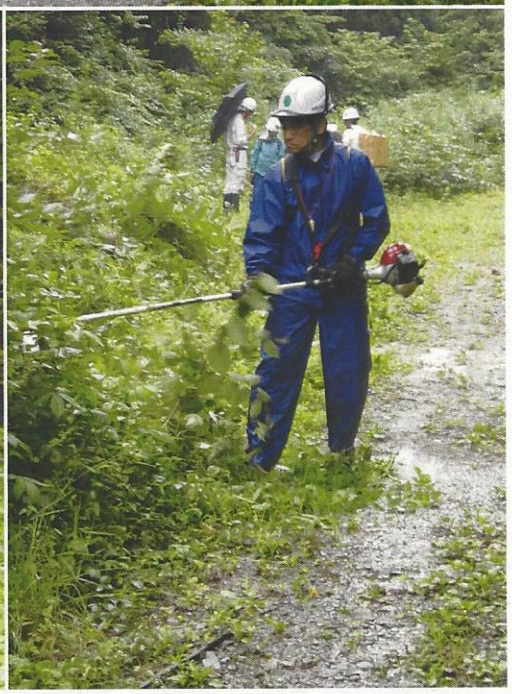
vol.63
2016年
8月26日
発　行

日本山岳会

「高尾の森」通信

―小下沢風景林の森づくり活動―

会員数:203名
(2016.07.31現在)



7月の定例作業は生憎の雨模様となり安全面から作業現場には入らず、林道沿いの草刈りや道づくりに汗を流しました。雨と汗でビッショリになりながらも頑張りました。

http://JACtakao.net

退任のご挨拶　河西　瑛一郎

20世紀も終わろうかという頃、長期間続いていたバブル経済も終わりつつあった。それまでの日本山岳会自然保護委員会は、このバブル経済を背景に山の中に作られるロープウェイやゴルフ場、スキー場建設或いは山を舞台とした山岳競技に対する反対運動を主な活動とし、それなりの成果を上げて来ていた。

しかし、バブル経済が終焉し山を舞台にした巨大開発事業が無くなると、山岳会自然保護委員会が行って来た反対運動の対象が無くなり、これからの委員会の活動をどう展開して行くかという問題に直面した。委員会終了後の飲み会で、今後の活動をどうするかが度々話題になったと記憶している。

この議論の中から出てきたのが「単なる反対運動ではなく、自分達で何か作って行く自然保護運動に転換すべきだ」との論であった。実践する自然保護論には、大森弘一郎氏の影響もあった、大森氏はかねてから机上の議論だけではなく実践・活動する自然保護活動を提唱していた。

当時すでに山の森林荒廃が問題になっていて、新聞や雑誌に取り上げられつつあった。

山を登っていた経験を生かして、我々の手で山の森林再生活動が出来ないものか検討が始められた。この辺の経緯については以前にも会報に書いているのでお読み頂きたいと思う。

そして、山の森に入って森林再生問題に取り組む事は、単なる自然保護運動にだけでなく、遠く縄文の時代から連綿と続く日本人と森の関係に想いを致す活動にも繋がると考えられた。また、会員の老齢化や会員数の減少に悩む山岳会の裾野を広げ、山に関心を持つ人たちを呼び込む可能性も期待できると思われた。

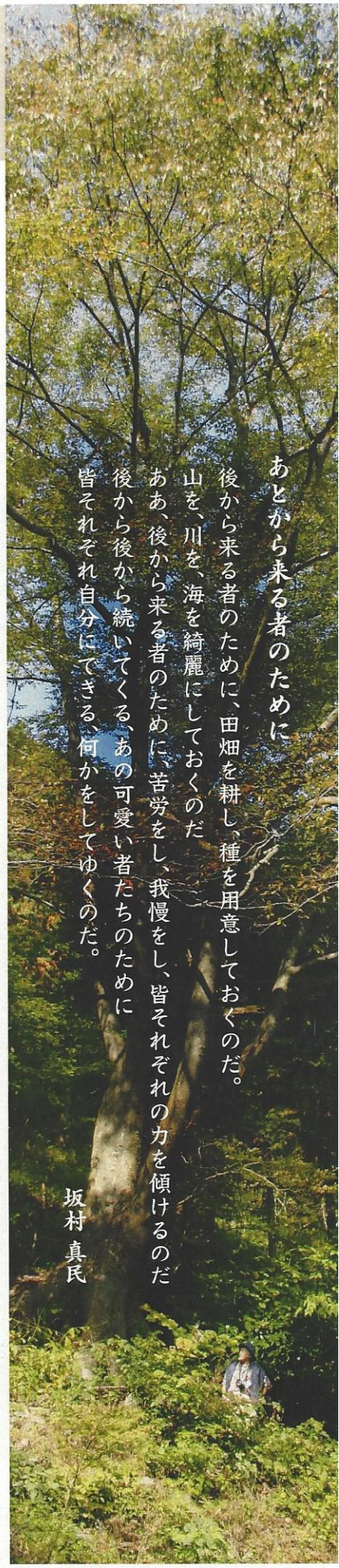
奇しくも、第２回の植樹祭が行われた2002年は「国際山岳年」の年となり、そのスローガンは「我ら皆、山の民」であった。確かに、平野に人が出てきたのは江戸時代以降の事で、それまでは安全で水・食料が豊富にある山間地にほとんどの人は住んでいたのだった。国土の７割近くが山と言う日本ほど、この「我ら皆、山の民」という言葉に相応しい国は無いと思う。我々の遺伝子の中には山の森の中で長く暮らして来た先祖の血が未だに色濃く残っているのだ。

西暦2000年に思いつきの様な事から始まった「高尾の森づくりの会」は時代の追い風に押されてスクスク成長した。誕生して16年学校で言えば高校２年生。もちろんこの間愉快な事ばかりでは無かったが、期待以上の成長をしたと言って良いだろう。

幸いなことは、この16年間の作業では重大事故が発生しなかった。初心者を含め延べ５万人以上が参加していると言うのにである。

これから16年経つと90を超える年齢になるが、元気でいて創立30周年を皆と祝いたいものである。新しい代表の下、課題は多いが知恵を出し合って元気で仲良く運営していって欲しいと思う。会員並びに関係諸団体の方々のご協力に感謝しつつ筆を置く。

2016／08　小下沢作業小屋建設10周年の年



活動の新たな展開と飛躍を期待する！　龍　久仁人

ようやく念願がかなって事務局の仕事をバトンタッチすることができ、ほっとしているというのが今の実感です。2001年の会発足当初から特別委員としてこの会の運営に携わり、2005年からは已む無く事務局の仕事も受け持つこととなった。時間つなぎと思って引き受けてから、なんと11年も経過する羽目となり、交代が遅きに失したと反省している。在任中、会員の皆様には何かとお世話になり、またご迷惑もおかけしたことと思う。退任に当たって何か書くよう依頼があったので、まずは紙上を借りて、この間の皆様のご協力に厚くお礼を申し上げます。

事務局の仕事は、誰かがやらなければならない裏方の仕事ですが、会員が200人、法人20社という規模となると、会員管理や各種段取り、活動企画、外部折衝など膨大な業務があり、これをボランティアでこなしていくのはやはり大変です。私の場合極力先行せず、ぎりぎりまで待つスタイルを心がけたので、いつもタイムリミットが気にかかって休めなかったように思う。今回若返りがかなった新たな体制では、業務を分けて負担を分散することとあわせ、一部の事務は有償で行なうことも、また改めて検討すべき課題と思う。

もうひとつの課題は、これからどんなフィールドワークを進めていくかということです。小下沢の協定区域内の森林は、15年の経過に伴って今では利用間伐が必要な50年生上の森林となっており、私たちの活動に見合ういわゆる切捨て間伐の対象地はなくなってきた。ここ数年わずかなギャップ箇所を集めて植樹を続けてきたが、そのギャップも植え終わった。署の更新伐が行なわれない限り今までのような活動をここでは当分の間、進めることが難しい。

一方、新たに取り組むことにした板当国有林の方は、隣接の滝ノ沢国有林も含めて保育間伐の必要な若齢の森林が多く、また植樹可能なギャップ地や署の伐採計画も控えている。署と協議の上、新５ヵ年計画では作業の主体をこちらに移すことを折り込んだ。ただ、問題は今のベースから通うのが遠いという難点がある。思いきって第２のベースとなる拠点をこちらに移すことも検討しなければならない課題であろう。協定区域についても見直しが必要で、体験林業から協定へと切り替えが必要となる。小下沢には長年の愛着があり、その継続を期待するのは誰しも至極当然のことではあるが、状況の変化や期待される要請の変化に対応した柔軟な発想も必要と思う。安住の地に浸っていると、どうしても内向きの思考に陥りがちである。若返った体制の下、我々に求められることに素直に応えていくような大胆な改革を進めていただきたい。

更にその延長上では、三宅島、気仙沼、ラオスなど、地元から要請があるプロジェクトについては、これに参加する会員の熱意が続く限り、会として支援を惜しまないという視点が欲しい。この会には、これまでの活動を通じて有能な力量を持った多くのリーダーが育っている。その力やノウハウを外に向かって移植するのもこの会の大きな役割であり、それぞれの会員が核となって新たな活動をおこすことを期待したい。佐川の森、冒険の森、近傍支部の森づくりなど、そのモデルとなるような活動もはじまっており、この会はそれらの活動を技術的、財政的にも側面から支援していくような度量を持った取り組みを行う時期にきていると思う。どのような方式であれ、地球の自然環境の保全に役立つような活動であれば、そんな大きな視点を持って、外部にも目をむけ飛躍するのを応援したいと思っている。

もくじ

退任の挨拶……02
総会報告……04
第4次高尾の森づくり5ケ年計画……05
小下沢NOTE……06
法人会員紹介……08
会員紹介シリーズ❻……09
プロジェクト報告……09
大津邦雄さんを偲び……11
事務局からのお知らせ……12

総会報告　松川征夫

日　時　2016年5月28日（土）16時～
場　所　富士電機能力開発センター会議室
参加者　69名
議　長　日比野克彦
書　記　山崎（喜）、本山

今年の総会は富士電機さんの能力開発センター会議室にて行った。
役員改選や、規約の改定など重要なテーマがあったためじっくりと行うことが求められた。
当初総会への参加者が減るよ! との問題提起を受けたが、
当日は想像以上に69名という多くの会員が集まってくれた。
より良い会にしようという意気込みを感じたのは私だけではなさそうだ。
以下議事録（簡潔版）です。

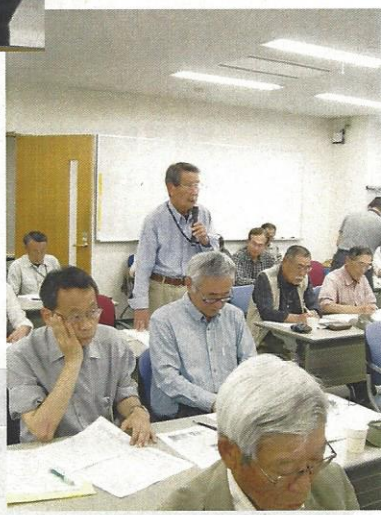
●第１号議案　「2015年度事業報告」「決算報告」（会計）、監査報告（鮫島）
賛成多数で可決されました。

●第２号議案　「2016年度方針および予算」（事務局・会計）
賛成多数で可決されました。

●第３号議案　「規約改正」（事務局）
第12条　種別及び定数
第14条　職務
第15条　任期
上記３条が一部変更して可決されました。

●第４号議案　「役員改選」
定数で意見が出されましたが、最終14名で可決されました。

●報告　今回から「各プロジェクト報告」、「専門班報告」を一部ながら行った。
様々な場面で汗を流している会員の活動を今後も多く入れていきたいと思う。



既に会報誌62号にてお知らせしましたが新幹事13名、監査役３名が決まり、
また、河西前代表・龍前事務局長は顧問に就任されました。
新たな役割分担は以下の通りです。

吉川正幸代表

馬場副代表	・管理署窓口（長期計画、作業報告）・企画（10年後を見据えて）
松隈幹事	・緑推窓口（補助金）・定例作業（作業班、作業計画、作業報告）
高橋幹事	・補助作業・機械作業・安全管理
仁藤幹事	・研修会（機械、森の、美林、初参加者、フィールド）
小木曽副代表	・広報（会報誌、ホームページ）・会員管理（入会、退会、会員名簿）
日比野幹事	・会員勧誘活動・活動記録（写真、展示）
湯川副代表	・会計（予算、決算、出納）・会計監査・会計基準
小口幹事	・会費管理・安全（衛星）管理（啓蒙活動、保険、無線機、）
松川事務局長	・総務（規約、幹事会、総会、組織、）・渉外（法人窓口）
川久保幹事	・イベント事務局（育樹祭、紅葉鑑賞会、記念イベント）
小山幹事	・プロジェクト事務局（三宅、気仙沼、ラオス、一丁平、上柚木公園）
大森幹事	・調査/研究（動物、メープルシロップ、生態、ドローン、）・活動記録（植樹本数 or 樹木、参加人数）
幹事会	・専門班（ものづくり、キッチン、道具班、環境整備）・普及教育（京王親子森林体験スクール、清新小学校父子キャンプ、滋慶学園、城山小学校、自然観察会、外部発表会）

第４次　高尾の森づくり５ケ年計画　（対象期間2016年4月～2021年3月）

「（自主的に）森づくりをしたい。」との強い思いでスタート

馬場隆博

（はじめに）

本会は、2001年１月に「日本山岳会自然保護委員会高尾の森づくりの会」として発足し、運営体制も日本山岳会会員が中心となり、この16年間自発的に運営されてきた。そして、今年５月の定例総会で代表、副代表、事務局長の交代に加えて運営体制も規約を改定し、従前の実施機関「実行委員会」から執行責任の明確化から会の最高決定機関として「幹事会」（定員14名）に刷新され、スタートした。

新体制の最重要課題は、「第４次高尾の森づくり５ケ年計画」の策定である。

この計画の策定に当たっては、現状分析はもちろんですが、発足時の「高尾の森づくり（50年後の森を見据えた）長期計画」を振り返ることが大事だ。

高尾の森通信第１号（2001.2月）に、次の記述（抜粋）があります。

高尾の森づくりの会副代表（日本山岳会　自然保護委員長）大蔵喜福氏（当時）

●会の100周年に向けて相応しい保護活動と位置付けた「日本山岳会の森づくり構想」がある。

●いままでの自然保護問題は、開発と対立関係という人間の問題でした。その図式を打ち破ってこそ本来の人としての自然保護・保全が可能になります。

東京神奈川森林管理署長　横井茂氏（当時）

●国有林……「国民の森」として位置づけ、その一環として森林整備への国民参加を促進するとの基本方針が示されています。

●当署としましても、体験林業に加え、森林づくりへのボラティア団体からの要望に応えた受け入れを行っていきます。

このように、当会は「（自主的に）森づくりをしたい。」との強い思いでスタートし、森林管理署の協力のもとに活動を推進して来ています。また、現在活動拠点の小下沢国有林については、森林管理署から提案のあった数か所の候補地から、最も急峻でかつ渓谷ありで、加えて基地（ベース）に水場があり、「日本山岳会」会員の活動に最もふさわしい場所として、決定されました。

かつての森づくりは50年だったが、今では80年、100年と長伐期の大計で取り組む状況にあり、当会設立時の取り組み方針・理念を大切にしながら、これからの森づくりに取り組む必要があると考えています。

1. 基本姿勢

1．持続可能な活動の基盤づくり

2．「多様で豊かな森林“巨樹の国ニッポンのモデルとなる森づくり”」

3．「高尾の森」の価値の共有

●水源林：多摩川の水源林のひとつ。

●レクリェーションの場：首都圏に住む国民の憩いの場

●社会貢献の場：国民及び会員の森づくりを通じた社会貢献の場

●貴重な森林資源：自然災害時等貴重な木材の供給地

2. 第４次　５ケ年計画のフィールド

これまでは、小下沢国有林の220、221林班及び219林班の一部で、植林、間伐等の森林保全活動を行ってきましたが、15年の活動により、植林場所がなくなってきたこと及びノコギリによる間伐が、間伐後の樹木の成長により小径から中径になってきており、難しい状況にあります。

このような状況を踏まえて、かねてから森林管理署に今後の取り組みを要望しており、今年度からは、過去15回実施の「植樹祭」に代えて、若齢林（19年生）の有る板当国有林での除伐を「育樹祭」と名を変えて、法人会員企業対象に啓発活動の一環として実施しました。

今後５年間は、小下沢国有林での活動に加えて、森林管理署の協力のもとに、隣接する板当国有林の若齢林（30年未満）の間伐に取り組む考えであります。

そこで、第４次５ケ年計画の主な活動フィールドとしては、第３次までのフィールドに加えて、218、219林班の若齢林、低・中層の劣勢木や、板当国有林の若齢林の除・間伐と蔓切を実施する方向で、森林管理署及び関係機関と諸調整を進めています。

3. 主要課題と取り組み

1．安全・研修の充実

●今後機械作業の増加が見込まれることから、機械作業の特別講習の継続実施、資格所持者の定期的に体系だったフォローアップ研修等の実施。

●森の研修会の会員からの要望を取り込んだ研修。

2．補助作業の拡充

●現在の補助作業の現状と第４次の活動フィールドを踏まえ、作業の更なる充実に向けて柔軟な取り組みを行う。

3．普及啓発の充実

●一般（参加）公募も含め、小下沢国有林の森巡りのイベントを開催し、森林・林業の大切さをより理解してもらう。

●親子体験スクール等森林環境教育を継続実施する。

●森林ボランティアリーダー養成講座（仮称）の実現に向けて取り組む。

4．活動場所の見直し

●活動場所の見直しの動きがあり、森林管理署の計画に沿って適切に対応していく。

以上

小下沢 NOTE 夏

6月定例作業

６月は新体制での初めての定例作業ということもあり、最初に新幹事の紹介と新代表から挨拶を行いました。
102名の参加者で下草刈り、板当国有林の除伐、ゲートまでの林道沿いの草刈りに取り組み、また京王親子体験スクールは水中昆虫採取（沢に戻します。）、ドローン飛行デモに皆さん喜んでいました。

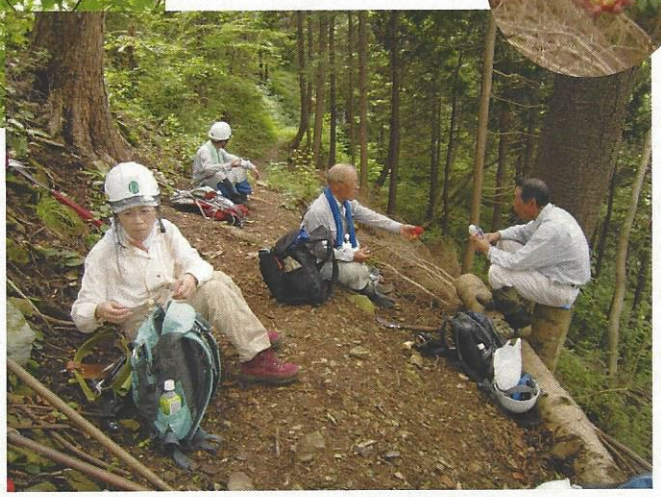
なにがいるの～?

7月定例作業

合羽は暑いっ!

７月は朝からあいにくの雨模様の天候でしたが50名の参加で、主に林道沿いの草刈りと道づくりを行い、汗と雨で全身ビッショリお疲れさまでした。下旬には「チェーンソー研修会」が行われ新たに４名の方が受講され無事終了証をいただきました。また23日（日）には補助作業参加者によりフィールドを歩きながら今後の在り方を模索しました。

8月定例作業



ほら！食べて！

水分補給？にトマト!!いいですね～

８月は厳しい暑さの中作業前に「梅干し」が配られ皆さん大変喜んでいました。作業は下草刈り、板当国有林での除伐、道づくりなどに取り組みました。また「ＴＡＫＡＯ５９９ミュージアム」にて山の日記念イベント自然保護写真展が８月１日～９日まで開催され、わが会も参加し多くのお客様に見学していただきました。期間中応援いただいた会員の皆さんありがとうございました。

苗木を切らないようにやさしく刈ってます。

【アミガサダケ】
小下沢林道で出会えたキノコ。
頭部が穴ぼこだらけでちょっと不気味で、
ほとんど食用にされなかったが、
洋風煮込みには捨てがたい味かと思う。

横川信由

法人会員紹介

株式会社河内屋
Kawachiya

きれいな空気、おいしい水、豊かな恵みをもたらす森は、みんなの“共通の財産”

人事総務部　今溝敏彦

高尾の森づくりの会　法人会員の株式会社河内屋です。

社会貢献活動として、2010年より「高尾の森づくりの会」に参加させて頂いております。育樹・秋の鑑賞会などの活動に毎年、若手社員を中心に参加させて頂き、今では多くの社員が毎年楽しみにする社内イベントとしてすっかり定着しています。

弊社は八王子を創業の地とし、飲食店様のご繁盛をサポートすることをミッションとした飲食店専門の酒類・飲料商社として、マーケットニーズを先取りし、四季折々の旬な酒類・飲料・食材などを定期的にご提案し、さらには新規ご開店の準備・サポートなどお客様のご要望にお応えできるサービスを提供しております。

おかげさまで今年創業69年目を迎え、現在では地元、八王子をはじめ首都圏で約8000店を超える飲食店様よりご愛顧頂いております。またフィット株式会社という飲食店様向け専門の共同物流会社を関連会社に持ち、配送の品質向上に日々努めております。

例えば、皆様も良くご存知の高尾山の山頂にあるビアガーデン、高尾山ビアマウント様も弊社の大切なお客様ですが、ビアマウント様まで続く急勾配で曲がりくねった坂道を安全に駆け上がるため、車両の荷台を短く切り改造した専用のトラックを導入し、環境への配慮と安全の確保を行なうなど進化を続けています。

私達は「飲食は文化」だと考えています。飲食店様専門の酒屋として、「飲食文化」創りの一翼を担いたいと考えています。

その一環として、最近では、八王子の街おこしのため、八王子の地元農家の方々に造って頂いた酒造米「五百万石」「美山錦」で醸造した純米吟醸酒「高尾の天狗」を販売するなど、地産地消、造り手の思いを伝えるなどの地域に密着した活動を行なっています。「八王子を食から盛り上げたい」「農家さん、蔵元、酒販店、飲食店様、市民の皆様との交流の場を作りたい、」との思いから、今年も八王子市民の皆様に酒米の田植えなどの協力を呼びかけたところ、120人ほどの方に集まっていただき、その様子はネットニュースでも取り上げられました。

また「高尾の天狗」のラベルには、高尾山薬王院貫首の大山隆玄さんに揮毫（きごう）頂いた「高尾の天狗」の名と共に、同寺の開運うちわや天狗をデザインし、家内安全や商売繁盛、開運の願いを込め、ラベルの祈願も行って頂きました。引き続き「八王子を発信するブランド」として多摩全域に広げていきたいと思います。

我々が販売するお酒・飲料には、その原料となる「おいしい水」が欠かせません。「おいしい水」の源泉である豊かで多様な森づくりのお手伝いをさせて頂く事は、そのまま我々の事業に直結するだけで無く、きれいな空気、おいしい水、豊かな恵みをもたらす森は、みんなの“共通の財産”との認識から、この財産を未来に引き継ぐため、また高尾の森が豊かで多様な森として在り続けるよう、微力ながら毎年欠かさずに参加させていただきたいと考えております。

「何時まで、チェーンソーを担いで山を歩けるかな？」

会員紹介シリーズ⑥
峰尾勝美

「森づくりの会」入会後、６回目の夏を迎えました。

八王子（廿里町）在住の峰尾です。20代の頃仕事の関係もあり栃木県で過ごした８年間を除き、生まれも育ちも地元の人間です。

戦後間もない子供の頃、私にとっての山は格好の遊び場であると同時に薪拾いや山菜採りの場でした。それが、中学校３年生の夏休みに友人と行った丹沢主脈縦走をきっかけに、「登ることだけを目的とした山」の魅力に取りつかれ、思えば、以来60年近く山登り一筋の生活を送ってきました。

若い頃は、高校山岳部の指導のかたわら、都岳連指導教育委員　会に所属して登山教室を手伝ったり、日山協で国体山岳競技を担当したりしていました。

「高尾の森づくりの会」については、山岳会の会報「山」を通じて設立当初から興味を惹かれ、「仕事」も「山」も一段落したら「ぜひ参加させてもらいたいものだ」と思いながら、その機会がないまま時間が過ぎてしまいました。

その後、７年ほど前だったでしょうか、山岳会の多摩支部設立の準備会に出席した折、お会いした黒木さんから勧められたことが入会の直接のきっかけとなりました。子供の頃から慣れ親しんだ山で、すばらしい指導者や先輩諸兄に出会い、沢山の仲間と一緒に、これまでとは一味違った山と関われることは嬉しい限りです。会の活動全般に参加する時間はなかなか持てませんが、最低でも定例作業日の活動は欠席しないように心がけています。

最近ではふと、「何時まで、チェーンソーを担いで山を歩けるかな」などと思ったりするような歳になりましたが、怪我をせず、皆さんに迷惑をかけないように気をつけながら頑張りたいと思います。今後とも、宜しくご指導下さい。

プロジェクト報告

Laos

第6回「ラオス植樹祭初参加」報告

“焼畑住民の生活”と“森林回復”の難しさに触れる

本山幸次

７月３日、贅溢れる日本の生活にボケきった私は、首都ビエンチャンから120 km 北方のバンビエンに向かうバスに日本からの参加者14人のメンバーとして揺られていた。10時半過ぎ、給油とトイレ休憩中に「ブレーキが壊れたので乗換バスが来るまで待っていてください」とのアナウンス。

早昼食べながら待つこと２時間、途中開発センターを訪問後、順調？に目的地の宿に着いた。

７月４日、植栽地入り口のダムサイトには学生52人、村人36人、開発センター職員11人、農林省森林局・出先機関・森林部局職員60人、マスコミ・通訳他７人、日本から14人の総勢180人が集まり、ラッタナ開発センター所長の挨拶でプロジェクトがスタートした。

本プロジェクトに、ボーとしたまま参加し知ったこと そして感想

- 村人、将来を担う学生に「あるべき姿」を描いてもらう事が大きな目的の１つと理解。
- 森林を焼き、棒で開けた穴に陸稲のタネを埋めて育てる手法が、生きる術の村民と解決策に悩む国家の貧しさ。
- 馬場さん演出の「森づくり紙芝居」には学生達もガッテン！がってん！

三宅島

第16回 三宅島緑化プロジェクト報告

若手の島民ボランティア増える

小南全功

5月19日（木）参加者14名（1日遅れで1名増える）が橘丸に乗船する。船が新しくなり揺れも少なく快適な船旅で三宅島に着く。

民宿「さつき」と「遊」に分宿し8：30さつきで出発準備をしているところに、村長が現れ挨拶を受ける。これまでには無かったことで、我々の活動が認められてきていることを実感した。

1日目の作業は「七島展望台」での植樹。タブ500本を植える。この場所はこれで5回連続の植樹で4,500本植えたがフイールドが広くほんの一部に植えた感覚。昼前に植え終わったので初期に植樹した千本山の成長度合いを見に行く。

大島桜などが7～8mになって立派な森になってきているのに感動する。その後、この時期ならではの木イチゴを食べ午後は明日の作業場所の甑の穴を有志で調査する。

2日目は、甑の穴（こしきの穴）のメンテナンス。ここで感じたのは島民ボランティアの方が増えたことだ。以前は3～4名であったが、7名参加してくれたことに感謝。しかも若手中心であり、今後の活躍も期待でき頼もしく感じられた。また、我々とも顔馴染みとなり楽しく作業と打ち上げをするのもこれからの楽しみとなる。

最終日は作業はなく、今回初参加の3名はガイド役と島内観光に出掛ける。残りは土産に伊豆諸島特産の「明日葉」摘みに行く。もちろん勝手にそこらのを摘むのではなく、伊豆緑産の佐久間さんの案内で各自それなりの量を土産にする。

午後船に乗り、恒例のテープを投げ受け取ってくれた島民ボランティアの方に見送られて帰路に着く。

気仙沼

第11回 気仙沼大島再生プロジェクト報告

2度目の気仙沼ボランティア

前川幸雄

6月17日～20日の「東日本森林復興支援気仙沼大島プロジェクト」に初めて参加しました。気仙沼は東日本大震災直後に「写真保存プロジェクト」のボランティアで活動して以来2度目で、復興はかなり進んでいましたが松くい虫被害がいまだに進行中であることを伺い、震災の被害が大きく根深いことを改めて実感しました。

気仙沼大島プロジェクトに参加して、①作業ではこれまで経験したことのない「ミリミリミリ・・・ドッスン・・・」の倒木時の大迫力、②平成25年3月に「気仙沼大島　みらいの桜プロジェクト」がスタートしていること、の2点に感銘を受けました。

遠方の気仙沼大島においては我々のみでの活動には限界があり活動が将来にわたって根づく為には地域の方との連携が必須要件と思われます。

高尾の志の高い先輩諸氏が地域行政部門をはじめとする多様な価値観の方々に対して一歩一歩誠実に育んでこられた信頼関係が深まったこと、これがプロジェクトで進めてきた津波火災木、松くい虫で枯れた松などの伐倒、処理などの災害対策活動をベースとして次世代を目指した「気仙沼大島みらいの桜プロジェクト」のスタートに繋がったことが想起されました。

枯れ松の伐倒・処理が進んだ亀山の頂きを眺めながら、近い将来に風光明媚な気仙沼大島が再生することを思い浮かべて心地よい疲労感と共にフェリーに乗り込みました。

富士電機東京山岳部
大島 徹

45歳で山歩きを始めて3年半、
単独登山に限界を感じ富士電機山岳部の門を叩いたのはすでに49歳の時でした。
「エッ、五十（歳）の新人？ そんなのいらねぇ～よ」という声がある中、
山の経験30年，40年の大ベテランばかりの山岳部に、山ド素人の中年新人を
温かく迎え入れていただきました。これが大津さんとの山のお付き合いの始まりです。
富士電機山岳部は、当時日野市山岳連盟にも所属していて年間のイベント盛りだくさん。
そこからはドンドンと山行回数が増えていき、
それに個人山行も加わって毎年山行日数は30日を超えていたでしょうか。
お蔭さまで単独ではできない経験を色々させていただきました。
特に2009年は初体験のオンパレード！
色々な山デビューがあり、そこにはいつも大津さんが一緒でした。

春山初挑戦のゴールデンウィークの爺ヶ岳～鹿島槍では、とんでもない快晴！ 大津さんが
「40年も山やってるけど、こんな天気のいい春山は初めてだ」と言っていたのを思い出します。
そんな恵まれた春山デビュー。テント泊デビューの黒部五郎，薬師岳では、会社が終わってから夜中に
北陸道のサービスエリアまで400kmの距離を4時間半、私のクルマでカッ飛んで行きましたね。
日本初のシルバーウィークに行った甲斐駒ヶ岳，千丈ヶ岳では、どこへ行っても想像を超える大混雑で、
北沢峠にたどり着くのも危ぶまれる中、テントが200張りはあろうかというテント場にようやく到着し、
あの時、大津さんが買ってきてくれた夕食の「うなぎ」が、めちゃくちゃうまかった。
それ以来、テント泊のメニューには必ず「うなぎ」を入れると決まってるんですよ。
冬山デビューの八ヶ岳では、本当は風が強いはずであろう硫黄岳が予想外のボカボカ陽気で。
だけど写真好きの大津さん、良い写真が撮れたと思います。

そうそう、富士電機山岳部が大勢で高尾の森にデビューしたのも2009年でした。
山岳部に入部してから色々な経験をさせていただき、8年が経過しました。そんな山ド素人だった私は
今では山岳部の部長です。って、ただ現役で山登っているのが私しかいないというだけなんですが。
それから、私が山岳部に入ってから図々しくも、「大」津さん，「大」森さん、「大」島の3人を、
富士電機山岳部のビッグ（大）スリーと呼ばさせていただいていました。
これからもビッグスリーの名に恥じぬよう、山岳活動を続けていきたいと思います。
事故が起こらないように、天国から見守っていてください。

作業の行き帰りや飲み会の席で、高尾の森、登山、仕事、家族のことなど、色々な話をさせて頂きました。ある時、お孫さんの話になり「孫が可愛いんだよな～」と、しみじみ話されていた優しい表情が思い出されます。
（相澤）

いつも山のうんちくを語ってくれた事、お酒を片手に山の歌を一緒に歌った事、浅川でランニング中の姿を見かけた事、そしてマラソン出場を教えてくれた事……思い出は尽きませんが、今まで通り見守って下さい。
（村田）

事務局からのお知らせ

主な作業・行事記録

5 /20～22	三宅島緑化再生プロジェクト	のべ42人
6 /11（土）	定例作業（除間伐、下刈）	101人
6 /17～20	気仙沼大島森林再生プロジェクト	のべ58人
7 / 2 ～7	ラオス展示林造成プロジェクト	のべ180人
7 / 9（土）	定例作業（道づくり、草刈り）	50人
8 /13（土）	定例作業（除間伐、下刈）	77人

今後の主な作業・行事スケジュール

9 / 3（土）	森の研修会
9 /10（土）	定例作業（主に間伐・除伐）
10/ 8（土）	定例作業（主に間伐・除伐）
10/20～23	三宅島緑化再生プロジェクト＊1
11/12（土）	定例作業（主に間伐・除伐）
11/18～21	気仙沼大島森林再生プロジェクト＊2
11/26（土）	紅葉鑑賞会

申込先
＊1．渡邊　watanabe-yo@jcom.zaq.ne.jp
＊2．小木曽　ogiso@home.zaq.jp
日比野　hibino@port-d.co.jp

森の研修会にいこう！

ムダに動いて疲れていませんか?
草刈り機を安全に効率よく使いこなそう！

日時／2016年９月３日　９時～16時
場所／作業小屋と周辺
講師／松隈　実技指導は白澤、峰尾
テキスト代／500円当日徴収
申込み／９月２日　仁藤まで
nito-masao@fujielectric.com

会員名簿を発行します。

11月の会報誌に同封する予定です。内容は①お名前② 住所　③ 電話番号　④メールアドレスを記載します。皆さんの中で名簿発行につき掲載を希望されない方は申告願います。例えば「名前だけにしてほしい」「電話番号とメールアドレスは掲載しないで」など
締め切り／10月末まで
申告先／小南　komikomikonan@gaea.ocn.ne.jp

会員者情報

【ようこそ】
橋本文成さん（日野市：７月入会）
【お疲れさまでした。】
山口久夫さん（2016. 5 月退会）

キッチン班からのお願い
マイカップ持参お願いします。

7月10日　JICA市ヶ谷ビルにて

山の日イベント

今年から国民の祝日「山の日」ができました。
8月11日は、「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する日」です。
日本山岳会の記念事業に合わせ当会も7月10日JICA市ヶ谷ビルにて、
また8月1日～9日まで高尾599ミュージアムにて活動写真展を開催しました。

編集後記

16年間我々をリードされた河西さんと龍さんから「退任にあたり」というテーマで執筆いただきました。変わって新体制が６月から幹事13名、監査役３名でスタートした。幹事の役割を皆さんにお知らせするとともに目指す方向（５ヶ年計画の一部）も合わせて掲載しました。スピーディな意思決定を確信しています。
会報誌担当を次回から小山さんにバトンタッチし新たなスタートを切っていただきたいと思う。（松川）

発行者／日本山岳会「高尾の森づくりの会」　発行日／平成28年8月26日　発行責任者／吉川正幸
編集／松川征夫　デザイン／田代悦子　印刷協力／コニカミノルタウイズユー（株）
「高尾の森」通信は間伐紙を使っています